

第8回企画展

昭和初期、ふたりの青年教員がみつめた世界

戦争の時代と呉の文化

童謡作曲家坊田かずまと歌人渡辺直己



呉市二河尋常小学校の生徒たちと坊田かずま



呉市立高等女学校の生徒たちと渡辺直己

濃く母に語り言
述べて少くもつ朝よ
暮るく勝れたる

平成19年
12月14日(金)
平成20年
～2月4日(月)

大和ミュージアム1階 大和ホール

料金

一般(大学生以上) 300円(700円)
高校生 200円(400円)
小・中学生 100円(200円)

* ()内は常設展示とのセット料金

開館時間

午前9時～午後6時

休館日

火曜日 ただし年末年始(12月29日～1月3日)は無休

お問い合わせ

〒737-0029 広島県呉市宝町5-20

TEL 0823-25-3017

ホームページ <http://yamato.kure-city.jp/>

アクセス



電車・バスでお越しの場合
JR呉駅から徒歩5分 または
呉市営バス宝町中央循環線
[大和ミュージアム・ゆめタウン前]
下車徒歩1分

お車でのお越しの場合
クレアライン呉ICから約5分
西条ICから約1時間

フェリーでお越しの場合
呉中央桟橋から徒歩1分

駐車場: 乗用車285台(有料)

昭和初期、ふたりの青年教員がみつめた世界

戦争の時代と呉の文化

童謡作曲家坊田かずまと歌人渡辺直己

開催にあたって

昭和の初めころ、呉のまちは「モダン都市」と呼ばれ、とても活気に満ちあふれていました。そのころ、満州事変や上海事変がおこり、戦争の時代へと進み、戦時色が濃くなってきましたが、呉では、音楽や文芸、スポーツなどの文化が華開いたといわれています。

今回の企画展では、そうした時代の呉の文化を、呉市内の学校などで教壇に立っていたふたりの青年教員を通して紹介します。ひとりは、呉市二河尋常小学校などの教員をしながら「かごめかごめ」など、全国各地のわらべ歌を楽譜に記す採譜活動をおこないつつ、数々の童謡を作曲した坊田かずまです。彼はまた、現在、一般的となっている楽器・合奏指導法を、音楽教育現場に先駆的に導入しています。

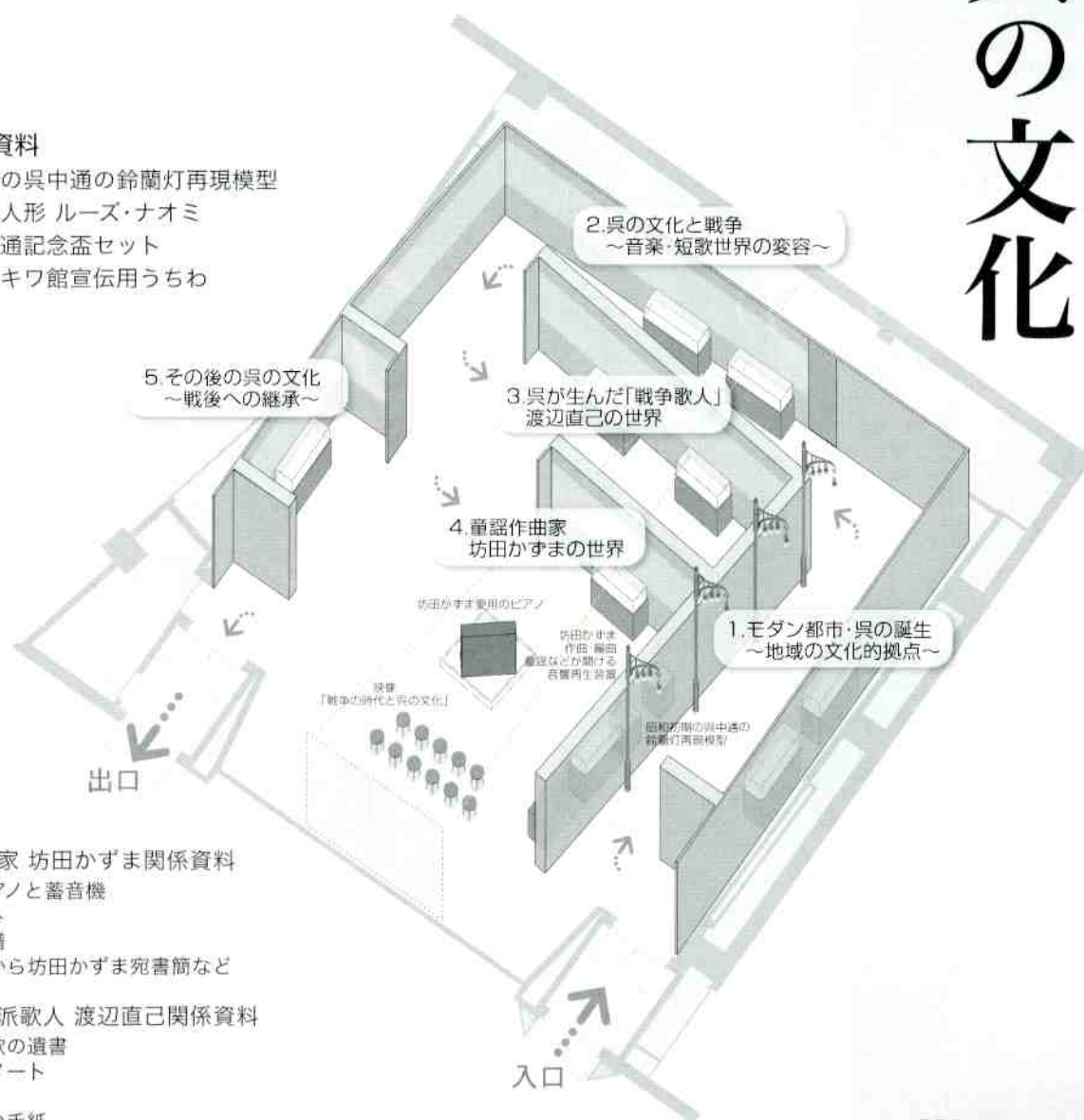
もうひとりは、呉市立高等女学校の教員をしながら、作歌活動を展開したアララギ派歌人の渡辺直己です。やがて、召集を受け、中国大陸を転戦しながらも、戦地でヒューマニズムあふれる歌をつくり「戦争歌人」として評されました。

戦争の時代に翻弄されつつも、音楽や文芸に情熱を傾けたふたりの青年教員の活動を通して、昭和初期の呉のまちなみの様子や当時の文化状況とともに、それが戦争により、どのような影響をうけたのかをご覧いただくことで、戦争と平和について考えるきっかけにいただければと思います。

呉市海事歴史科学館
館長 戸高一成

主な展示資料

- 昭和初期の呉中通の鈴蘭灯再現模型
- 青い目の人形 ルーズ・ナオミ
- 三呉線全通記念盃セット
- 映画館トキワ館宣伝用うちわ



- 童謡作曲家 坊田かずま関係資料
愛用のピアノと蓄音機
直筆ノート
直筆の楽譜
藤井清水から坊田かずま宛書簡など

- アララギ派歌人 渡辺直己関係資料
両親宛の歌の遺書
短歌詠草ノート
陣中日記
戦地からの手紙
土屋文明から渡辺直己宛葉書など